

令和7年度実務・実践発表大会概要

令和8年2月20日(金)

社会福祉法人阪神福祉事業団

発表施設	内 容
障害者支援施設 ななくさ新生園①	<p>【One Team ～よりそい・きづき・そうぞうする支援を目指して～】</p> <p>旧厚生院での仮住まいがスタートして約10カ月、様々な課題に向き合ってきました。ご利用者が安心・安全に暮らせるようにと職員が一丸となり「よりそい・きづき・そうぞうする支援」を目指して課題の解決に努めました。今回はそんな「よりそい・きづき・そうぞうする支援」について、私たちが見つけた答えを発表しました。</p>
救護施設 ななくさ厚生院	<p>【地域交流～地域における公益的な取り組みについて～】</p> <p>厚生院は西宮市から宝塚市への移転を機に、地域社会との関わり方を見直しました。これまでは展示即売会を通じた交流が中心でしたが、都市部である環境を活かし、より多様な関わり方を模索しました。地域との関係性を最大限に活用し、ご利用者が目指す「地域移行」が実現できるよう地域との関係性を深めた過程について発表しました。</p>
障害者支援施設 ななくさ育成園①	<p>【理想の居場所作りを求めて】</p> <p>こども食堂に関する取り組みについて、今年度は、ボランティアセンターやフードドライブといった地域資源の活用、大学訪問や他の子ども食堂の調査等を重点的に行いました。その結果、「みんなの食堂ななカフェ」の魅力について改めて考察する機会となったため、今年度の活動実績と今後の展望を発表しました。</p>
障害児入所施設併 設障害者支援施設 ななくさ学園	<p>【行動の原理を用いた支援実践】</p> <p>こだわり行動を「まだ学習されていない行動がある」あるいは「誤って学習された行動である」という視点から捉え直し、こだわり行動を抑制するのではなく、選択可能な行動を増やすことで、結果としてこだわり行動の緩和を図る支援を模索してきました。本発表では、こだわり行動の緩和を目標に行動原理である強化随伴性を用いた支援実践を発表しました。</p>
障害者支援施設 ななくさ育成園②	<p>【寄り添う支援を目指して～そして気付いたこと～】</p> <p>ななくさ育成園の4階フロアは、かつては自立度の高い方が多く生活されていた、ましたが、年齢を重ね、介護が必要な方が増加しています。また、近年は強度行動障がいや精神障がい等を有する方の入所も多く、様々な特性の方が混在している状況です。個別対応を模索する中での気付くと、ご利用者に寄り添った支援事例を発表しました。</p>
障害者支援施設 ななくさ新生園②	<p>【電車でGO！！～K様の自己決定支援を通じての気づき～】</p> <p>幅広いご利用者を対象に外出レクリエーションを実施していくため、新生園独自の意思確認ツールを作成し、全ご利用者への意思確認を行いました。意思決定支援を進める中で、ご利用者が思い描く外出レクリエーションの内容を把握し、その実現に向けた環境調整を行いました。また、これらの支援を進める過程で得られた気づきや、今後のひまわり寮における支援の進め方を発表しました。</p>

<p>障害者支援施設 ななくさ清光園</p>	<p>【想いを形に ～より良いご利用者様の生活のために～】</p> <p>接遇向上に向けた取り組みの中で、職員一人一人が互いに啓発し合いながら、権利擁護に関して主体的な取り組みを実践していけるような職場の環境づくりの必要性を強く感じ、職員間でグループワークを重ねてきました。ご利用者の思いを大切にしながら利用者主体の支援を実践していくために、清光園全体で取り組んできたことを発表しました。</p>
<p>特別養護老人ホーム ななくさ白寿荘</p>	<p>【「自分らしさを忘れたくない！」～一人ひとりの笑顔の先に～】</p> <p>ご利用者が日々の生活に潤いを持てるよう、どのような余暇を過ごしたいか？ということのアセスメントし、個々にやりがいを持って取り組んでいただくことでご利用者の笑顔が増え、生き生きとした生活が送ってもらえるよう支援を行って来ました。自分らしさを忘れずに充実した日々を過ごしていただくために、取り組んできたことを発表しました。</p>

※順番は発表順。